

横山健堂

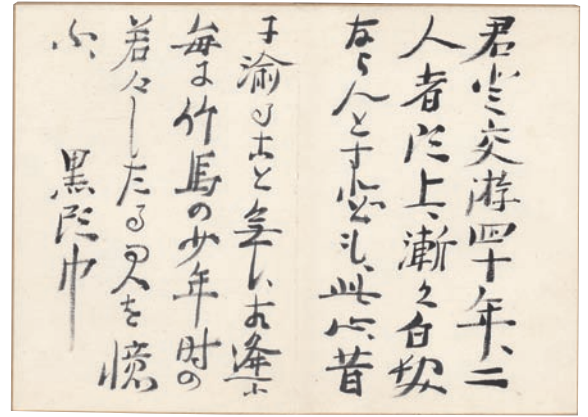
よこやまけんどう
萩市・長門市
(1872～1943)



【著作】
『日本近世教育史』(明治37・同文館)
『高杉晋作』(大正5・武俠世界社)
『長周遊覧記』(昭和5・郷土研究社)ほか



長門市青海島の顕彰碑から海上アルプスを望む



横山健堂が、鈴木政植氏に贈った色紙

一 長周山水の大観

若し長州が維新の雄藩たらざりせば、長州は風景園として、天下に持て囃されてゐたであらう。長州の自然趣味が今まで、ひろく世間に理解されなかつたのは、餘りに政治上に知られたからである。

或見方に由つては、長周の山水は、その人物の如くである。原始的、神秘的の趣致は少くして、山水そのものがレフアインされてゐる。明媚にして親愛すべき風景である。三面は海につつまれ、半島の趣がある。随つてその雰圍氣は頗る快活である。

長周の山水は、非常によく纏つてゐる。それが長周山水の特色である。恰も、長州人が、偉材に乏しくとも、銘々、よく纏まつてゐるのと、その山水と相似てゐる。(後略)

〔長周遊覧記〕(郷土研究社)冒頭より

横山健堂 年譜

明治5(一八七二)年 11月5日、父横山幾太・母タニの長男として萩市で生まれる。父幾太は松下村塾で学んだ。本名達三、別号黒頭巾。少年時を越前で過ごし、萩中学校、山口高等学校に進む。
明治28(一八九五)年 二二歳 東京帝国大学入学。
明治30(一八九七)年 二五歳 小野田セメント創始者笠井順八の三女キクを娶る。
明治31(一八九八)年 二六歳 東京帝国大学国史科を卒業。専攻は日本教育史。
明治32(一八九九)年 二七歳 国学院国史科主任講師になり、以後、佐賀県第三中学校(現唐津東高校)教諭、大阪毎日新聞社客員、駒沢大学教授などを歴任。
昭和18(一九四三)年 七十一歳 12月24日、東京順天堂病院で死去。

(提供・寺井谷子)

年	著書	備考
明治24(一八九〇)年	『旧長藩十二士伝』	
明治32(一八九九)年	『初等帝国史』(大日本図書)	
明治37(一九〇四)年	『日本近世教育史』(同文館)	
明治41(一九〇八)年	『教育史余材』(開発社)	
明治43(一九一〇)年	『現代人物競』(読売新聞社)	
明治44(一九一二年)	『旧藩と新人物』(敬文社)	
明治45(一九一二年)	『趣味の人』(新潮社)	
明治45(一九一二年)	『新人国記』(敬文社)	
明治45(一九一二年)	『芸芸地理東海道五十三次』(前川文栄園)	
明治45(一九一二年)	『趣味』(実業之日本社)	
明治45(一九一二年)	『評論漫筆人と水』(博文館)	
明治45(一九一二年)	『趣味の人物』(中央書院)	
明治45(一九一二年)	『人物研究と史論』(金港堂書籍)	
明治45(一九一二年)	『世界史講義』(高山堂)	
明治45(一九一二年)	『大将乃木』(敬文堂)	
明治45(一九一二年)	『鉛筆だより』(春陽堂)	
明治45(一九一二年)	『薩摩と琉球』(中央書院)	
明治45(一九一二年)	『文部大臣を中心として評論せる日本教育の変遷』	
明治45(一九一二年)	『山水と人物』(小谷野作)	
明治45(一九一二年)	『人物と事業』(東亜堂書房)	
明治45(一九一二年)	『大西郷』(弘学館書店)	
明治45(一九一二年)	『大正東郷』(春陽堂)	
明治45(一九一二年)	『タリアの前にて』(大日本雄辯堂)	
明治45(一九一二年)	『伯大隈』(実業之日本社)	
明治45(一九一二年)	『石雲録』(文正堂書店)	
明治45(一九一二年)	『快心録』(日東堂)	
明治45(一九一二年)	『怪光』(駁々堂書店)	
明治45(一九一二年)	『義民宗吾』(日東堂)	
大正5(一九一六)年	『潜行海賊船』(駁々堂書店)	
大正5(一九一六)年	『高杉晋作』(武俠世界社)	
大正5(一九一六)年	『防長之精華』(山口響海館)	
大正5(一九一六)年	『大聖空海』(弘学館書店)	
大正5(一九一六)年	『秀吉と家康』(東亜堂書房)	
大正5(一九一六)年	『厚東史の評論』(東隆寺)	
大正5(一九一六)年	『改造の精神』(中央報徳会)	
大正5(一九一六)年	『二宮と乃木神社』	
大正5(一九一六)年	『新人国記』(弘学館書店)	
大正5(一九一六)年	『巴城開府三百年』	
大正5(一九一六)年	『長門峽と耶馬溪』	
大正5(一九一六)年	『大将乃木』(先進堂書店)	
大正5(一九一六)年	『法網を潜る人々』(大東書院)	
大正5(一九一六)年	『長周遊覧記』(郷土研究社)	
大正5(一九一六)年	『高木正年自叙伝』(代々木書院)	
大正5(一九一六)年	『師範出身の異彩ある人物』(南光社)	
大正5(一九一六)年	『峰間鹿水伝』(峰間氏還暦祝賀会記念刊行会)	
大正5(一九一六)年	『大将乃木』(日本兵事学会)	
大正5(一九一六)年	『錦帯橋国風景記』(岩国町役場)	
大正5(一九一六)年	『松井大将伝』(八社社)	
大正5(一九一六)年	『嘉納先生伝』(講道館)	
大正5(一九一六)年	『日本相撲史』(富山房)	
大正5(一九一六)年	『日本武道史』(三省堂)	
大正5(一九一六)年	『没後』	
昭和19(一九四四)年	『剣客物語』(みたま出版)	
昭和19(一九四四)年	『大西郷兄弟』(宮越太陽堂)	
昭和19(一九四四)年	『松浦武四郎』(北海出版社)	
昭和19(一九四四)年	『明治文学全集92』(筑摩書房)	
昭和19(一九四四)年	『日本教育の変遷』(臨川書店)	
昭和19(一九四四)年	『日本教育史7』(雄松堂出版)	